

鈴木定博さん 瑞宝単光章受章

鈴木定博さん（狩山日浦）が 88 歳を迎えられ、長年にわたる消防団幹部としての功績により、高齢者叙勲を受章されました。

鈴木さんは昭和 23 年に池川町消防団に入団し、平成 7 年に退団されるまで、46 年余の長きにわたり消防活動の第一線に立ち、水害・火災防除等に献身的に努め、多大の成果と功績を納めました。

昭和 38 年からは副団長として、率先して団員の資質向上と士気高揚に努力し、消防人としての職責を全うされました。

2 月 23 日、大石弘秋町長から勲章が手渡され「おめでとうございます。長い間ご苦勞様でした」とお祝いの言葉を掛けられると、笑顔で応えていました。

46 年間消防人の職責全う



自宅にて妻の純子さん、大石町長と

第16回タイムカプセルin吾川じゃ

8 年後また、この場所で

2 月 25 日 卒業間近となったこの日、大崎小学校と名野川小学校の六年生十八人（大崎小十三人、名野川小五人）が、吾川中学校のグラウンドにタイムカプセルを埋めました。

「吾川笑いの里懇談会吾川じゃ会（大原哲夫代表）の主催で毎年行われている「タイムカプセル in 吾川じゃ」も、今年で十六回目。児童たちは、二十歳の自分にあてた手紙や写真などをケースに詰め、大原会長や先生方の指導のもと、慣れない手つきで一生懸命埋めていました。

児童からは「掘り起こすのが今から楽しい」「僕たちが二十歳になった時、大崎の自然や人の優しさが変わってないといい」など感想が聞かれました。八年後の成人式の日に開封される予定のタイムカプセル、今からその日が待ち遠しいですね。



埋める前にみんなで記念撮影

南海地震に備えろ！長者地域自主防災勉強会

2 月 25 日 高吾北消防署員のご指導をいただき、防災ビデオでの勉強会や応急処置について、また大きな災害では、行政も手が回らないので普段の生活の中で自助・共助活動の大切さを教わりました。

お昼には、長者の食生活改善グループの皆さまの協力で炊き出し訓練（おにぎり、豚汁、非常食の試食）を行い、午後は長者小学校の児童と一緒に、起震車体験、煙体験、消火器の取り扱いなどについてご指導をいただきました。

南海地震は必ず来ると言われています。災害を最小限にするため、家族の中で避難場所など、日ごろから話題にすることが大切です。

（長者の西森直隆さんからの投稿です）

☆皆さんの投稿お待ちしております





春本番を思わせる陽気
この日は吾川地区のス
ポーツ少年団(大崎ジュニア、中津ジュニア)のメン
バーと保護者、吾川中学校
と仁淀高校の生徒や先生
方、地域の方など約百人が
参加しました。

桜名所への道を美しく

2月26日 町青少年健全育
成協議会吾川支部(岡林照
壽支部長)と町教育委員会
の共催で、大崎からひよ
うたん桜へと続く町道大崎
鹿森線の清掃活動が行わ
れました。

環境美化ボランティアに100人

この活動は、桜の花見
シーズン前に、花見客や地
元の人たちに気持ちよく
道路を利用してもらおう
と、平成五年ごろから続け
られている地域の子ども
たちの恒例行事です。

この日は吾川地区のス
ポーツ少年団(大崎ジュニア、中津ジュニア)のメン
バーと保護者、吾川中学校
と仁淀高校の生徒や先生
方、地域の方など約百人が
参加しました。

の中、大崎の
基幹集落セン
ターからひよ
うたん桜まで
約三キロの道
りを、ごみ袋
を片手に道路
脇や側溝に落
ちているごみ
を拾いながら
歩きました。
毎年の清掃
活動で、収集
されるごみは
年々減っては
いますが、今
年も軽トラツ
ク四台分のご
みが集まりま
した。ごみの
大半は、投げ
捨てられた空
き缶や空き瓶
でした。



消防団春季防火パレード

防火用語 「消したかな、あなたを守る合言葉」



3月6日 春の火災予防運動期間中のこの日、町消防団が防火パレードを実施しました。

各方面隊に分かれ隊列を組み、火災予防を呼び掛けながら町内全域を巡回しました。昨年は、吾川と仁淀方面隊が無火災で、町全体でも消防団の出動した火災は1件と、少ない結果となっています。

今年は、すでに2件の山林火災が発生しています。住民の皆さまも火の始末には十分注意し、火災を出さないよう心がけましょう。

大正・北ノ川中が2年ぶりの優勝

第18回桜花杯ソフトボール大会

2月27日 吾川中学校グラウンドを主会場に「第18回桜花杯ソフトボール大会」が開催され、吾川・池川中合同チーム、仁淀中と、町外から招待した強豪四チーム(大正・北ノ川中合同、高岡中、香北中、上分中)が出場しました。

当日は心配していた雨もなく、予選リーグ戦から熱戦が繰り広げられました。

決勝には大正・北ノ川中合同チームと高岡中が勝ち上がり、緊迫した投手戦を制した大正・北ノ川中合同チームが2-0のスコアで2年ぶりの優勝(前回は大正中が単独優勝)を果たしました。

また、3位決定戦は吾川・池川中合同チームと仁淀中で行われ、11-1で吾川・池川中合同チームが勝利しました。



集落見聞録

(第51回)

なが さか

長坂

名野川鉦山でにぎわった厳寒の集落

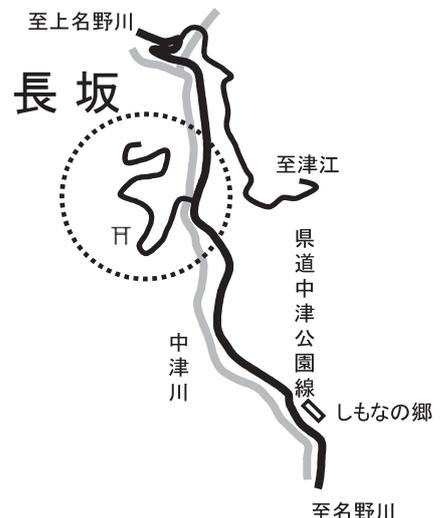


長坂集落

長坂は2月末現在11世帯25人、役場本庁から車で約30分の集落で、中津川沿いに人家が点在しています。標高が高く、冬はしばしば数十センチの積雪が見られます。

長坂という地名の語源は、主要集落から上の大畝（伊予間道の通る尾根筋）へ通じる道が、どの道も長い坂道になっていたことに由来して長坂という地名になったという。

（吾川村史より）



集落に詳しい掛水壽明さん（91歳）と、息子の泰治さん（64歳）にお話を伺いました。

昔は集落のどの家も、コウゾとミツマタの栽培を生業としていました。当時の

農家では子どもたちも家の貴重な労働力で、朝はひと仕事してから小学校へ行き、夜も親と一緒にキビの皮をはいだりしたそうです。



掛水さん親子

長坂には田んぼは少ししかなく、米は大変貴重で、主食はキビとサツマイモでした。盆・正月と神祭、遠足の日などに数回、麦の混ぜた米のご飯を食べることができ、嬉しかったそうです。

昭和三十年ごろから、ほとんどの家が養蚕業へと移っていききました。今でも集落の所々に、当時の名残の蚕室が残っています。一般の蚕よりも値が良い「種蚕」も飼育しており、養

蚕が盛んなころは繭産額で家計が潤っていました。「種蚕は一キ五千円以上する」ときもあつた。オス・メスを鑑別する専門家が、長坂へも泊まりがけで来て家々を回り「よつたね」と壽明さん。残念ながら、外国（特に中国）からの生糸輸入で繭産額は下が

り続け、昭和の終わりには転職や兼職を余儀なくされました。また長坂には「名野川鉦山」があり、閉山する昭和三十年ごろまで、銅や硫化鉄などが採掘されていました。全

国から集まった従業員とその家族が長屋などで生活し、子どもも多くともにぎやかだったそうです。かつては七夕様、荒神様、百万遍、金毘羅様など、集落の行事もたくさんありましたが、現在も続いている恒例行事は、大元神社と宮島様の神祭のみとなりました。

「七夕様の前日には各家で縄をなつてつなぎ、当日の朝に子どもらが家の庭に咲いちゅう花をそれにさして谷から谷へ渡した。子どもも大人も（お酒が飲めるので特に

大人が）、七夕様を楽しみにしちよつたよ」と泰治さん。掛水さん親子は「長坂は寒い所で冬には道が凍るし、四、五十センチ雪が積もる日もある。車がある人はいいけど、国道からも遠い不便な所よ。まあ家族仲良く暮らせよう。きよしとせな」と笑いながら話してくれました。



長坂集落の氏神大元神社。毎年2回神祭が行われている